

第5学年 体育科 学習指導案

日 時:令和3年11月9日(火)5校時

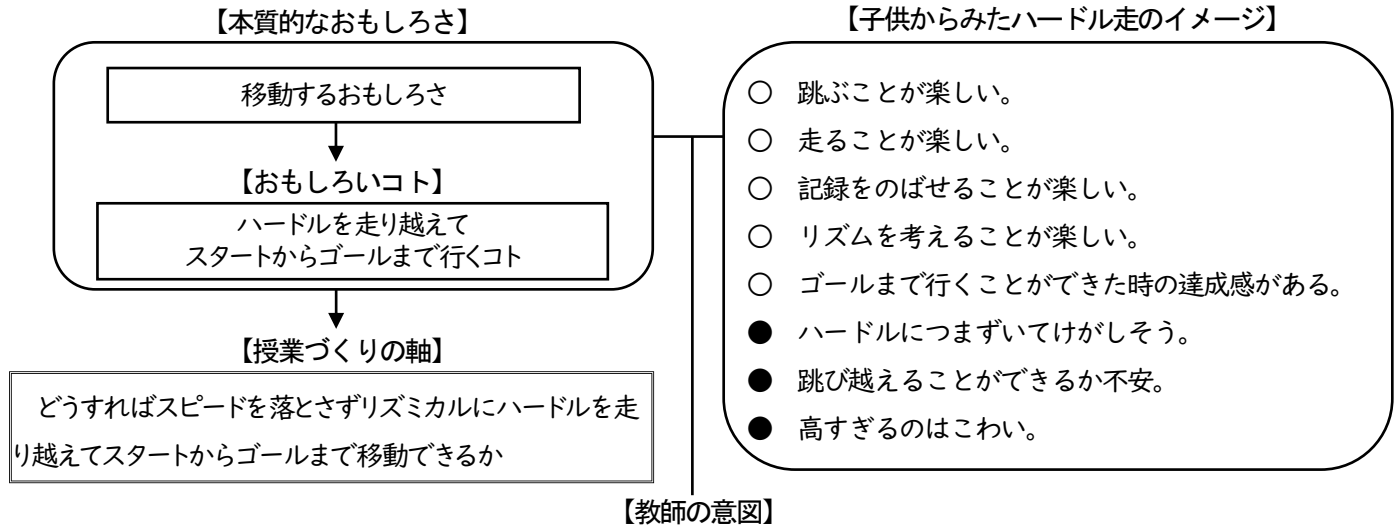
場 所:高越小学校運動場

指 導 者:T1 古田 安伸

T2 原田 和子

1 単元名 スピードを落とさずに走り越えよう!

2 授業づくりの考え



【教師の意図】

(1) 子供の実態

本学級は、運動が好きな子供が多く、体育にも前向きに取り組む。友達同士で励まし合ったり、協働したりする姿も増えてきている。4年生「小型ハードル走」では、自分に合ったコースでリズムよく走り越すという移動するおもしろさを経験している。しかし、事前アンケートでは、「ハードルにつまづいてけがをしそう」「高すぎるのはこわい」など、恐怖心をもつ子供がいる。また、「跳ぶことが楽しい」「跳び越えることができるか不安」からは、ハードルを走り越すというイメージをもっていないことが分かった。さらに、これまでの学習では自分の課題を明確にできなかったり、自分の成長を感じることができなかったりしたことで学習意欲が低下してしまう子供もいた。

(2) おもしろいコトの共有を図る環境(用具と場)と問いの設定

ハードルに対して恐怖心を感じている子供がいるため、用具は自作の養生ソフトハードルを使い、一番低いものにそろえることによって、おもしろいコトの共有を図りやすくする。そして、授業づくりの軸に繋げるために、場はハードルを等間隔に並べたコースと不規則に並べたコースをつくる。複数のコースを比べることで、スピードを落とさずにリズムカルに走り越えることができる等間隔で並べたコースのよさを感じ取らせて学習をスタートする。

(3) 単元の展開と主な支援

おもしろいコトの共有が図れたら、等間隔で長さが異なるインターバルのコースを複数用意し、まず、自分のリズムに合うコースを見付けることができるようにする。自分に合うコースを選ぶことができない子供には、ハードル間を同じ歩数で走ることができるコースを選べるような声かけを行う。そして、「スピードが落ちてしまうのはどんな時か」と問いかけたり、掲示物やワークシートのモデルと比較できるように環境を整えたりし、個人の課題を明確にする。振り返りカード等を元に全員の意識を見取り、子供からでてきた課題を解決するための場を設ける。また、タブレットや交流ボードを用意することで、協働的に学ぶことができるようにする。友達と関わり合いながら学ぶことで、新しい走り越え方などの新たな価値を見付けたり、課題を解決したりすることができるだろう。このような活動を通して、ハードル走のおもしろい世界に浸り、自己・他者・運動と対話しながら主体的に学んでいく子供を育成したいと考え、本単元を設定した。

3 目標

- ハードル走の楽しさを味わい、その行い方を理解するとともに、新しい走り越え方などの新たな価値を見付けリズムカルにハードルを走り越えることができる。【知識及び技能】
- ハードルをリズムカルに走り越えるためにはどうすればいいのかを考え、見通しをもって自己の課題に適した場を選択したり、自己や仲間の考えたことを伝えたりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ハードル走に積極的に挑戦し、約束を守り仲間と協働して運動や準備などをしたり、仲間の考えや取組を受け入れたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができる。【学びに向かう力、人間性等】

時間	1	2	3	4	5	6	7
学習活動・子供の主な学びの姿・環境	スピードを落とさずに様々な場に挑戦する。	ハードル走のおもしろいコトを共有している。	自分に課題に応じた場でハードル走に挑戦する。	これまでの学びを活かし、友達と協働しながら課題解決を行う。	課題解決の見通しをもち、友達に自分の考えを伝えながらハードル走に取り組んでいる。	これまでの学習したことを活かしてハードル走に取り組み、新たな価値を見付けている。	
	用具 自作のハードル 環境 ハードルが等間隔に並んだコースと不規則に並んだコース	用具 自作のハードル 環境 30mハードル走 (4m, 4.5m, 5m, 5.5m, 6m)	用具 自作のハードル, タブレット, ケンステップ, マーカーコーン 環境 30mハードル走4m, 4.5m, 5m, 5.5m, 6m 5コース 4台 ハードル1台 (足を合わせる, ハードリングの観察) ケンステップ (リズム感を養う) 連続ハードル (走と跳の切り替え)				
発揮されている姿	培いたい資質能力が ・タブレットで撮った自分の動きを見て、課題を見つけようとしている。㊦ ・お互いに動きを見せ合いながら、協働して課題解決しようとしている。㊧㊨ ・自分の課題に応じた場で練習したり、掲示物や友達の意見を参考にしたりして、課題解決しようとしている。㊦㊧						

5 本時の目標と展開 (5/7)

(1) 本時の目標

自分の課題にあった場を選んで挑戦したり、スピードを落とさずに走り越えるための方法を友達と伝え合ったりすることを通して、リズムカルにハードルを走り越えることができる。

(2) 本時の展開

時間	学習活動と子供の姿	子供の状況把握の視点	教師の支援
5	1 身体感覚づくりの運動を行う。 どんじゃんけん		○主運動につながる簡単な運動を行って学習に主体的に取り組む気持ちを高められるようにする。
5	2 本時の見通しをもつ。 【本時の問い】 どうすればスピードを落とさずリズムカルにハードルを走り越えることができるか。		
25	3 課題に合った場でハードルを走り越える。 ・タブレットの映像や友達の助言をもとに自分の動きを見直し、試行錯誤する。 ・友達に助言を求めたり、自分の考えを伝えたりする。	○自分の課題に合った場を選び、課題解決に向けて考え、試行することができるか。 ①自分の課題に対してどのように改善したらいいのか見通しが立たずに、意欲が低下してしまう。 ②友達にどのような声かけや助言をすればいいのか分からない。	①前時までの活動の様子やワークシートの記述を基に、課題に合った場に促す。 ②交流ボードを用意し、交流ボードの記述から友達に助言ができるようにする。
10	4 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 *本時の学習で分かったことや気づいたことをワークシートに書く。	○新たに発見した課題や課題達成ができた方法、友達のよい動きを発表する。	○友達の課題解決の方法や上手かった方法を聞く場を設定することで、それぞれの課題解決に繋がるようにする。